

こだわりの食 をたずねて

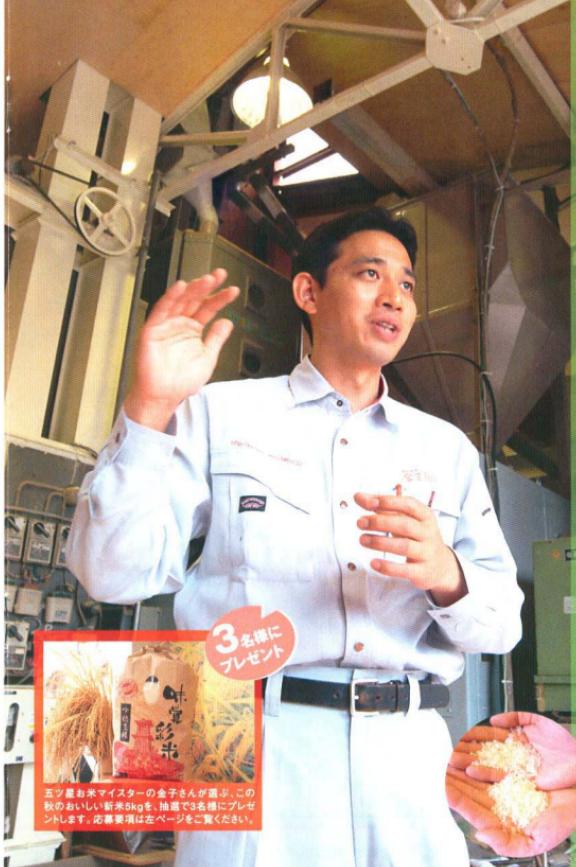
第14回

金子商店

(埼玉県川越市)

消費量が増加しているとはいっても、日本の食の基本は、いまでもお米。そして生産者と消費者の間に立って、お米販売さんです。毎日の食事の中心に、炊きたてのおいしいご飯を食べてみませんか。

金子商店には玄米の低温貯蔵、精米工場、直営が同じ敷地にあるので、仓库から出た玄米を手で精米、包装して直営で販売することができます。お米についての思いを語る金子真人さん。



五つ星お米マイスターの金子さんは、この秋のおいしい新米5kgを、抽選で名前でプレゼントします。応募要項は左ページをご覧ください。



土日には観光客があふれる蔵の街通り。街並みが大切にされる金子商店。店内に店を構える金子屋さんは、金子商店です。有機農業をテーマとした日本の中の国際会議に出席して韓国から中国の金子真人さんに、さっそくお話をうがいました。

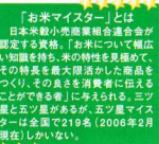
「どうしたらもう一度日本人にお米を食べられるかで頭がいいばいです。お米の消費量が減つていることはもちろん、日本人の食糧自給率が4割を切っていることも心配です」と食卓から飯が減るより気がかりな金子さん。

その味はお米のよいしさ、大切さをもう一度見直して頂きました。考え方の金子さんによれば、お米との付き合いで、お米への思いが深まっています。◎ブランドや产地にこだわらず、その年その時期のおいしいお米を選ぶ。だからすぐにふたを開け、軽く混ぜて水分を飛ばし、ふきんをかぶせておく保温機能は使わない。それこれで炊がるよくなることがあります。だからこそ、炊く前に2~3回、さつと研ぐ。◎炊飯器が炊きあがりを教えてくれたらすぐにふたを開け、軽く混ぜて水分を飛ばし、ふきんをかぶせておく保温機能は使わない。それこれで炊がるよくなることがあります。だからこそ、炊く前に2~3回、さつと研ぐ。

金子商店には玄米の低温貯蔵、精米工場、直営が同じ敷地にあるので、仓库から出た玄米を手で精米、包装して直営で販売することができます。お米についての思いを語る金子真人さん。



「五つ星お米マイスター」の認定証書を手にする社長の金子金次郎(右)と息子で業務の真人社さん(左)。下の写真は昭和17年撮影の家族写真。前列中央で母親の金子太太が描かれているのが、当時1歳の金子社長。



インフォメーション

株式会社金子商店
〒350-0052
埼玉県川越市宮前町1-12-7
TEL 049-222-0143
FAX 049-225-6861
<http://www.kaneko-shouten.co.jp>

●店頭はインターネットでも購入できます。
現在しあない。

プレゼント募集要項

プレゼントご希望の方は、郵便はがきにこの要項に対する感想を添え、●氏名・電話番号・会員登録番号を明記のうえ、下記の宛先までお書きください。(株)お米様・柏団地の応募とさせていただきます。

●宛先
〒104-0061 東京都中央区銀座1-19-1丸美屋ビル(株)ブランニックセンタ内 丸美屋
さんはくらや事務室 「お米」プレゼント係
■応募締切日
2006年10月10日(火)当日消印有効